

文化芸術×防災

学ぶ 行動する

in NAGANO

会場
長野県立
美術館ホール

災害時の文化施設を思案する



被災地の避難所
その実情は？

公共の施設
すべて
避難できる
わけでは…



被災地の
文化施設
これからの対策や
役割は？



2025
2/14
(金)

受付
12:30
講演
13:00-16:00



お申込みフォーム→

※メールでのお問い合わせは裏面へ



参加無料



主催：一般財団法人長野県文化振興事業団 後援：長野県・長野市 一般社団法人 長野県高齢者福祉事業協会
企画：「文化芸術×防災」調査グループ 令和6年度インセンティブ事業「職員グループによる企画制作プログラム」

「文化芸術×防災」調査グループ

事業団内の公募事業である、インセンティブ事業に採択されたことを契機に活動を開始した調査グループ。ホクト文化ホール・長野県伊那文化会館・事業団事務局と、異なる所属のメンバーが、文化芸術の視点から地域防災の普及を目指し様々な活動を行っている。



橋之口みゆき

災害N G O ラブ＆アース代表・災害時緊急支援コーディネーター
鹿児島県出身・白馬村に在住
東日本大震災を機に自団体を立ち上げ住民に寄り添った支援活動を実施中！
能登半島地震では災害時女性支援プロジェクトメンバーとして
避難所の環境改善や女性専用ポーチの配布
お茶っこカフェなどを開催している。

嶋田 直人



社会福祉法人光仁会富竹の里 常務理事（施設長）。

長野県千曲市生まれ。

大学卒業後、特別養護老人ホーム富竹の里の介護職員、生活相談員等を経て
2017年から現職。本業の傍ら令和元年東日本台風での高齢者避難の経験と教訓を
伝える活動も行う。趣味はお酒と読書。

スケジュール

12:30	受付開始
13:00	開会挨拶
13:05-13:20	趣旨説明 「災害時の事業団の役割と今後の活動」
13:20-13:40	調査報告 「文化芸術×防災」調査グループ 「東日本大震災を経験した文化施設のこれから」
13:40-14:10	講演① 橋之口みゆき 「災害時の避難所の状況と課題」
14:15-14:45	講演② 嶋田 直人 「災害史に学ぶ～経験から得た教訓を防災・減災に活かす～」
15:00-15:55	ディスカッション ※視察報告・講演への質疑応答もふまえ、会場の皆様も含め自由討論型で行います。
15:55	閉会挨拶
16:00	閉会

開催概要

長野県文化振興事業団は、1979年文化事業の実施と文化施設の効率的な運営を行うための組織として設立されました。現在では3つの文化会館（長野・松本・伊那）、県立美術館、飯田創造館の5つの文化施設と埋蔵文化財センターの運営を担っています。

運営を行っている施設は比較的の規模も大きく、周辺住民からの認知度も高いことから、避難所としての指定の有無にかかわらず災害時、避難所として地域住民が来館することが想定されます。これは事業団だけの問題ではなく、全国の同様の施設でも起こり得る課題です。さらに近年の人口減少により、災害時の地域における避難所の扱い手不足がより顕著になるとともに、要配慮者についてもあらためて意識することが必要です。

そこで、災害時の避難所、要配慮者の災害時対応に詳しい講師の方をお招きし、災害時の文化施設の役割を考える契機とします。また、事業団インセンティブ事業「文化芸術×防災」調査グループによる、東日本大震災時に被災した文化施設の当時の状況と、今後の災害対応についての調査報告も実施します。

文化施設のみならず学校や企業の防災担当者、そして多くの地域住民の方々にご参加いただき、災害時のより良い対応について考えていきます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

インセンティブ事業代表:横山 俊一

お問い合わせ: ☎ 026-291-4800 ✉ s.yokoyama.r@naganobunka.or.jp (●を@に書換えてください)

(一財)長野県文化振興事業団 インセンティブ事業『文化芸術×防災』代表者:横山 俊一